

 <p>ORDER MADE STRAGE</p>	<p>オーダーメイド収納</p> <h1 style="margin: 0;">オオ</h1> <h2 style="margin: 0;">取扱説明書</h2> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;">必ずお読みください</div>	<p>NANKAI PLYWOOD 南海プライウッド株式会社 本社 〒760-0067 香川県高松市松福町1-15-10</p> <hr/> <p>首都圏営業グループ 首都圏 第1・2・3チーム TEL (087) 825-3621 FAX (087) 825-3645</p> <p>東日本営業グループ 北海道・東北営業チーム TEL (087) 825-3632 FAX (087) 825-3695 関東甲信越営業チーム TEL (087) 806-3660 FAX (087) 825-3645 中部営業チーム TEL (087) 825-3622 FAX (087) 825-3646</p> <p>西日本営業グループ 近畿営業チーム TEL (087) 825-3623 FAX (087) 825-3647 中四国営業チーム TEL (087) 825-3624 FAX (087) 825-3648 九州営業チーム TEL (087) 825-3625 FAX (087) 825-3649</p> <p>特需営業グループ 特需 第1・2・3チーム TEL (087) 825-3662 FAX (087) 825-3669</p>
---	---	--

- ご使用になる前に必ずこの「取扱説明書」をご一読いただきますよう、お願いいたします。
 間違った取り扱いを行いますと製品の品質劣化や人への損傷につながる可能性があります。本書に従わず取り扱いを行った場合については、当社での保証は致しかねますのでご注意ください。
- お読みになったあとは、大切に保管し必要な時にお読みください。

マークに関する説明事項

<h3 style="margin: 0;">警告表示の種類と内容</h3>	人身事故や財産の損害を未然に防止するために、製品の取り扱いについて次のような警告表示をしています。内容を、ご理解の上、正しく安全にお使いください。
--	---

誤った取り扱いをした場合に生じる危険とその程度を、次レベルで説明しています。		本文中に使われている図記号の意味は、次のとおりです。	
	<h3 style="margin: 0;">警告</h3>		この表示を無視して誤った取り扱いを行なうと使用者などが死亡または重症を負うことが想定される危害の程度を示す。
	<h3 style="margin: 0;">注意</h3>		この表示を無視して誤った取り扱いを行なうと使用者などが傷害（※1）を負うことが想定されるか、物的損害（※2）の発生が想定される危害・損害の程度を示す。 <small>（※1）傷害とは、治療入院や長期の通院を要さない、ケガなどをさす。 （※2）物的傷害とは、家屋・家財に関わる拡大損害をさす。</small>

 <h2 style="margin: 0;">警告</h2>	
	<ul style="list-style-type: none"> ● お子様を扉で遊ばせない。 上レールや中棧にぶら下がったり、扉に乗ったり、乗ったまま開閉しないでください。扉が破損したり脱落してケガをするおそれがあります。親または監督者が幼児や子供に対し注意を促すとともに、教育や監督をしてください。

 <h2 style="margin: 0;">注意</h2>	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 扉やすき間に指を入れない。 扉と枠の間や扉と扉のすき間に手や指を入れないでください。扉の開閉時に手や指をはさんでケガをするおそれがあります。特に小さなお子様のいらっしゃるご家庭では、扉のすき間や扉とレール・床のすき間に手や指がはさまれる可能性がありますので十分ご注意ください。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 製品の上に乗らない。 棚板やカウンター、引出し、スライドテーブルなどに乗らないでください。破損・転倒・落下してケガをするおそれがあります。
	<ul style="list-style-type: none"> ● ハンガーパイプやスライドハンガーに人がぶらさがらない。 ハンガーパイプやスライドハンガーが破損したり、落下してケガをするおそれがあります。特に小さなお子様には十分ご注意ください。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 扉には寄りかからない。 扉に一定以上の負荷がかかると、扉が外れ破損による事故やケガのおそれがあります。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 強い衝撃を与えない。 扉に物をぶつかけたり、ぶつかったりなど、強い衝撃を与えないでください。扉の破損による事故やケガのおそれがあります。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 開閉はゆっくり行なう。 扉の開閉は静かに行なってください。扉が破損したり脱落してケガをするおそれがあります。また勢いよく開閉した場合、指や手、体の一部などをはさんだり激しく当たりケガをするおそれがあります。開閉に際しては十分に注意してゆっくり行なってください。特に小さなお子様には十分ご注意ください。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 耐荷重の目安を必ず守る。 棚板やハンガーに過度の重量物を置いたりすると、たわみ、変形が起こり、場合によっては落下してケガをするおそれがあります。 （「耐荷重の目安値」をご参照ください。）

ご使用上のお願い



● 製品に直接水をかけない。

表面化粧のはがれや反りの原因となります。
※樹脂棚板はとりはずして水洗いできます。
(ただし、必ず乾燥させてから取り付けてください。)



● 傘・レインコートや食器類など、濡れた状態で収納しない。

表面化粧のはがれや反りの原因となります。
必ずよく乾燥させてから収納してください。



● 粘着テープ(養生テープ・セロハンテープ・シール等) は貼らない。

表面に粘着跡がのこるおそれがあります。



● 水や油などが付着しないようにしてください。

水・油・インク・薬品などが付着した場合は
すぐに拭き取ってください。放置するとシミ・
変色などが発生するおそれがあります。



● 蒸気のでる家電製品などを使用する際は、スライドテーブルを必ず引出す。

蒸気のでる家電製品や熱源の露出した器具
(電気コンロなど) を収納したまま使用しないで
ください。変形、変色の原因になります。



● 扉や取手に荷物を掛けない。

扉や取手に重量物をかけないでください。
破損や落下のおそれがあります。

お手入れ

ユニット部分



● 日常のお手入れ方法

乾いた柔らかい布で乾拭きする。

● 汚れがひどい場合

中性洗剤を水で薄めたものを布にしみ込ませ、強く絞って拭き取り、よく乾燥させる。

● 樹脂棚板のお手入れ方法

水洗いをした後、しっかりと乾燥させる。



● 換気をする。

収納内部には湿気がこもりがちになり、結露やカビの発生原因となるため、
時々内部の収納物を出し、十分な換気を行なってください。

アルミ部分

布スポンジなど柔らかいものを使い、洗剤は必ず台所用中性洗剤を薄めて使用してください。

ご注意

- 必ず研磨剤の入っていない台所用中性洗剤を使用してください。その他の洗剤・溶剤などは製品表面の変色や変質、キズがつくおそれがありますので、使用はお控えください。
- 洗剤は原液のまま使用しないでください。変色するおそれがあります。
- 金ペラや金属ブラシなどの使用は避けてください。



パネル部分

パネルはキズがつきやすいのでお手入れの際は下記を参考に、十分注意して行ってください。

パネルについているゴミやほこりなどを柔らかいハンドモップなどで軽く払ってください。

その後、水で200倍程度に薄めた台所用中性洗剤を浸した柔らかい布を絞り、軽く拭き取ってください。

ご注意

- 必ず研磨剤の入っていない台所用中性洗剤を使用してください。その他の洗剤・溶剤などは製品表面の変色や変質、キズがつくおそれがありますので、使用はお控えください。
- 洗剤は原液のまま使用しないでください。変色するおそれがあります。
- クレンザーやタワシ、堅い布は使用しないでください。
- ゴミやほこりが付着したまま拭いたり、パネルを強くこすると、キズの原因になりますので十分にご注意ください。



スライドテーブル上の使用機器について

※下記内容は家電・調理機器をスライドテーブル上で使用する場合の制限であり、保管に関しては問題ありません。

以下をご確認いただき、使用できる機器をお確かめください。

OK スライドテーブル上で使用できる機器

- 電気炊飯器
- 電気ポット
- 電気ケトル
- ミキサー
(フードプロセッサー・ジュース)
- ホットサンド、ワッフルメーカー
- コーヒーメーカー
- トースター・オーブントースター

ご使用にあたっては、上記 **ご使用上のお願い** をお守りください。

NG

スライドテーブル上で使用できない機器

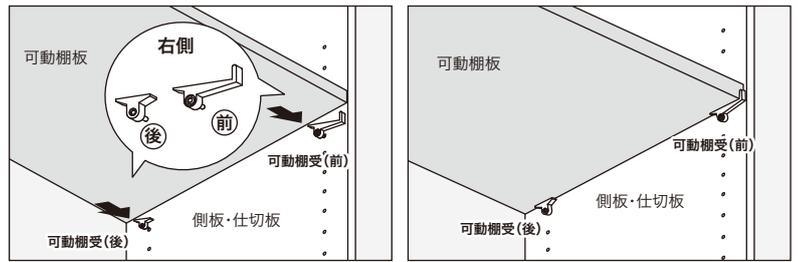
※必ずユニットから取り出してご使用ください。

- ホームベーカリー
- ホットプレート
- IH調理器
- ガス炊飯器
- グリル鍋
- カセットコンロ

可動棚板の取り付け

可動棚板を設置する箇所に可動棚受のピンをダボ穴に差し込み、可動棚板をのせてください。

- ※可動棚受(前)は形状が左右で異なりますので、ご注意ください。
- ※使用するダボ穴の位置が同じ高さになるようにご確認ください。



扉の開閉動作確認

定期的な動作確認と掃除を行なってください。

上レールや扉本体上部の吊車周辺などに、ホコリや異物などが付着したまま長期間使用すると、上レールや吊車の摩耗の原因となり、正常に走行しなくなるおそれがあります。こまめに清掃を行なってください。

注意 上レールおよびスューザーに潤滑油を塗布しないでください。動作不良を起こすおそれがあります。

スューザーの自動復帰(スューザー有りのみ) ※スューザーが正常に動作しない場合のみ

1.扉を全閉

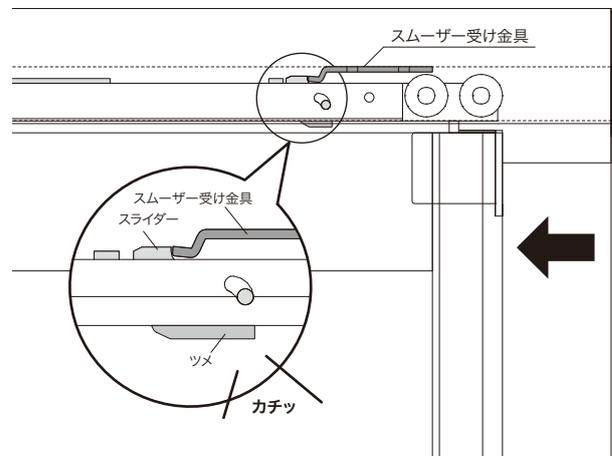
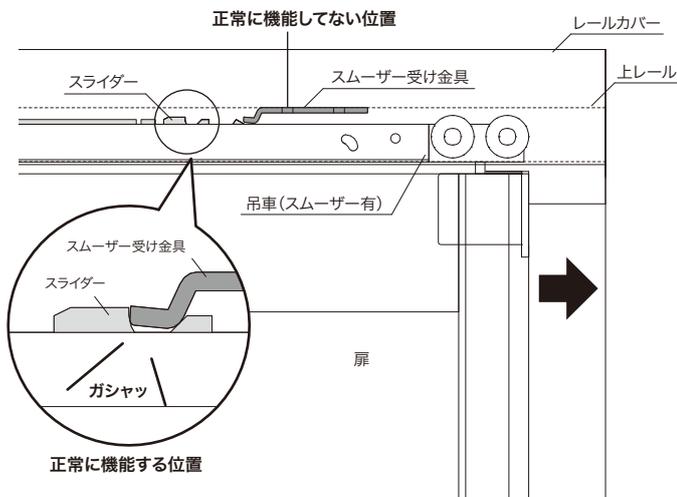
扉を戸先側にゆっくりと動かし、全閉してください。
左右どちらかが10mm程手前で一度扉が止まりますので、最後まで閉め切ってください。スライダがスューザー受け金具を乗り越えるとガシャッと音がします。

注意 必ずたて枠に当たるまで全閉してください。

2.扉を開く

スューザー受け金具が見えるまで扉を開いてください。
正常に自動復帰するとカチッと音がし、吊車(スューザー有)下側にツメが出てきます。

注意 開閉はゆっくりと行ない、スューザー自動復帰後は無理に押し込んだり、引っ張ったりしないでください。動作不良の原因となります。



3.スューザー自動復帰の確認

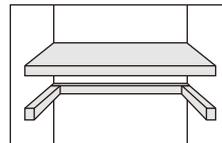
扉をスライドさせてスューザーが正しく動作しているか確認してください。
スューザーが正常に動作するまで、上記1・2を繰り返してください。

耐荷重の目安

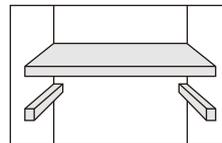
■アートランバー・シェルホワイト たわみ試験より算出した棚板荷重の目安(単位：kg)

厚み	15mm厚 [芯材]集成材				20mm厚 [芯材]集成材				27mm厚 [芯材]集成材				
	奥行(mm)	300	450	600	910	300	450	600	910	300	450	600	910
間口910mm	3方受	20	25	30	40	55	70	75	85	110	110	135	185
	2方受	10	15	20	30	25	40	60	85	70	105	130	185

試験方法：3方受



試験方法：2方受



☞ 注意

- 躯体強度、取り付け方法によっては性能を保持できない場合があります。
- 間口寸法によってはたわみ量が大きくなり、実用に適さない場合があります。
※間口が910mmよりも広い棚板については、必ず方立もしくは束を施工してください。
- 棚板の変形を防止するためにも荷重はできるだけ分散するようお願いします。
- この荷重の目安は、長期荷重試験においてJIS規格の範囲内で使用できる荷重値に安全率を加味した算出値です。
- 棚板の取り付けに弊社製品「棚柱セット」各種を使用する際は、「棚柱セット」の耐荷重値を確認の上、より小さい値を耐荷重の目安値としてご認識ください。
※棚柱セットでの棚板取り付けは「2方受」の耐荷重値に準じます。

■その他パーツ

パーツ	耐荷重の目安値
棚柱セット (棚板1枚・棚柱4本・棚受4個の場合)	50kg ※1
スライドテーブル	30kg
フレーム引出し (1段あたり)	10kg
キッチン収納用引出しH118・H174 (1段あたり)	10kg
キッチン収納用引出しH302 (1段あたり)	20kg
バスケット (1段あたり)	5kg
樹脂棚板	3kg
ハンガーパイプ	50kg ※2
スライドハンガー	5kg

※数値は目安値であり、品質保証値ではありません。

☞ 注意

※1
棚柱セットの荷重の目安は上に載せる棚板の荷重の目安とたわみ量により制限されます。
アートランバー・シェルホワイトをご使用になる場合は、上記をご覧ください。

※2
パイプ長さ(またはブラケットピッチ)が1000mm以下の場合で算出しています。